

100年 先を読む

42

「●●女子」が 創出する 新規の商売

女性活躍後進国家・日本

天照大神が岩戸の内部に隠棲され、それを解決したのが天鈿女命の舞踏であった故事により、日本は「日の本は女ならで夜の明けぬ国」とされてきたが、現在の日本は逆転している。一例として女性就業比率は世界で低位である。全就業者の女性比率でこそ日本は45%で欧米諸国と遜色のない状態であるが、管理職従業員の比率ではアメリカの41%、スウェーデンの39%、オーストラリアの38%、イギリスの36%、フランスの35%などに比較して日本は15%でしかない。

より広範に男女格差を比較している世界経済フォーラムによる最新の男女格差指数では総合で153か国中120位、分野ごとでは政治が147位、経済が117位であり、前年より順位は低下している。比較するのは失礼かもしれないが、アジアの大半の国々は日本より上位である。最近の女性差別の舌禍事件の影響で、日本オリンピック委員会は理事の人数を増員するとともに女性理事の割合を従来の20%から40%以上に変更したが、泥縄の印象である。

衰退産業を浮上させる 「●●女子」

しかし女性活躍後進国家とされる日本にも潮流の変化が発生している。しばらく以前から「●●女子」という名称で、従来は男性の仕事や趣味と理解されていた分野に女性が次々と進出してきた

のである。仕事の分野では農業女子、林業女子、土木女子、左官女子などが登場しているし、趣味の分野では刀剣女子、古墳女子、銭湯女子、廃墟女子、競馬女子などが有名である。これらは一部の物好きな女性の活動というだけではなく、社会に影響をもたらしている。

一例が林業女子である。日本の林業産出総額は1980年には1兆2000億円程度で80%以上が木材の売上げであった。しかし現在では4500億円程度に縮小し、木材の売上げは50%でしかない。それを反映し、林業就業者数は同一の期間に14万5000人



から4万5000人に激減している。その結果、人手不足のため森林は手入れされず荒廃してきた。ところが小型の重機で伐採や搬送が可能になったため、全国各地で林業女子が山主の依頼によって森林の管理をしている。

林業と同様に農業も人手不足であり、1980年には700万人であった就業者数は最近では180万人にまで減少している。そのような状況を反映して都会の女性たちが農村に移住して農業女子になった事例があったが、2013年に多数の企業や教育機関も支援して「農業女子プロジェクト」が設立された。1000名近い女性が全国各地で農業をしながら、企業と共同で女性の作業に便利な作業衣類や農業機械を開発し、個人の趣味を超越した活動になっている。

趣味の分野では刀剣女子が注目されている。契機となったのは2015年に発売された「刀剣乱舞」というコンピュータゲームで、短刀、太刀、薙刀などを擬人にして合戦する内容で、同名の舞台演劇や実写映画になり、女性を魅了して刀剣女子が誕生した。それ以後、東京国立博物館で国宝の太刀などが展示されれば女性が殺到し、神社などの秘蔵の名刀が展示されても同様である。これまで



一部の熱心な人々の趣味が一気に社会現象になったのである。

視点の変更が新規の商売を 浮上させる

女性が熱狂するだけで商売になるのか疑問とされるかもしれないが、土木女子や農業女子が増加してきたことに素早く反応した作業衣類の大手「ワークマン」は、女性を対象にした色鮮やかな作業衣類を「#ワークマン女子」として販売したところ人気となり、日常の衣服としても購入されるようになって、一気に販路を拡大することに成功している。スポーツ用品の大手「モンベル」も農業女子プロジェクトに協賛して、従来のスポーツ用衣料品から新規の市場を開拓している。

J・ホイジンガ『遊戯する人間』（1938年）やR・カイヨワ『遊戯と人間』（1958年）が喝破したように、人間の特徴は遊戯にある。その見解からすれば、「●●女子」は大半の人間の視点からは仕事として理解してきた行為を遊戯という対極から理解していることになる。

現代の大半の商売は勤勉を背景にしており、遊戯の視点が欠如している。それが現在の産業や仕事の停滞の一因でもある。「●●女子」の軽快な視点から社会を観察すれば新規の商売の機会を発見できるはずである。



東京大学名誉教授
つきおよしお
月尾嘉男
Tsukio Yoshio

昭和17（1942）年生まれ。東京大学工学部卒業。工学博士。コンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策等を研究。全国各地でカヌーとクロスカントリースキーをしながら私塾を主宰し、地域の有志とともに環境保護や地域計画に取り組む。著書に「幸福実感社会への転進」（モラロジー研究所）、「転換日本」（東京大学出版会）ほか多数。